

# 「総合的な学習の時間」実施上の課題

東京学芸大学 児島邦宏

## I 学力の構造と「総合的な学習の時間」

〈層的な学力観〉（重ね餅的な学力観） 教育課程審議会答申 H12・12

「学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身につけることはもとより、それにとどまることなく自ら学び考える力などの【生きる力】がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要がある。」

- 1 知識を無視したり、軽視するものではない。百科全書主義が問題
- 2 基礎・基本とは＝学習指導要領に示す各教科等の基礎的・基本的な内容（知識や技能のみならず意欲や思考力、判断力、表現力などの学び方・学ぶ力を含めて）
- 3 知識か思考力か、基礎基本か生きる力か、読・書・算か生きる力かといった二者択一的な学力観から層的な学力観への転換

第Ⅰの層＝基本的な生活能力（日常生活に不可欠、各教科を支える道具としての力  
読・書・算、現代社会の3 R's）

第Ⅱの層＝各教科等の基礎的・基本的な内容（前述）

第Ⅲの層＝自ら学び考える力などの生きる力（学校教育の到達点とともに生涯学習  
社会の出発点、その中核となる学習が総合的な学習）

学力の基層としての体験、知の実践化としての体験

\* 第Ⅱの層の教科等の知を活用（実践化）し、駆使（総合化）して、第Ⅲの層の生きる力が展開。つまり、教科等が総合学習を支える。教科等が武器。逆に、総合学習の実践の場面で教科等の不十分さを自覚し、教科等を学び直し、活性化。

\* 総合的な学習はどんな学習か 社会の変化に主体的に対応する能力の育成＝ことも今日の社会的な課題とが直接的に向き合う学習、主体性を育てる

## II 実施上の課題

### 1 教育課程が作られていない（資料参照）

- ・ 単元開発、活動づくりはなされてきたが、それらを通してどんな力を育て、積み上げていくかがはっきりしない（小学生も利根川、中学生も利根川、高校生も利根川、いったいどこが違うのでしょうか？）
- ・ 目標（どんな力を育てるか）とその内容からなる指導の系列の作成、教師にとっての指導の見通し。これがないと、方向が定まらずはい回る
- ・ 単元や教材は、指導の目標と内容が定まっていればこどもの興味に基づき柔軟に替えることが可能となる
- ・ もちろん、指導の目標と内容は固定されたものではなく絶えず改善をすすめる
- ・ 指導の目標と内容（どんな力をつけるか）は、評価の観点となる。教育課程がないと評価の観点があいまいになる。ねらいがあいまいでは、評価ができない。

## 2 単元・課題の作り方

- ・ 教育課程（教師のしっかりした見通し）に立って、課題・単元をこどもで作る。
- ・ こどもは社会について何の不満も問題意識もない（興味関心がない）
- ・ 環境・周囲への気付き・感性・問いかけをどう高めるか（生活科との関連）
- ・ こどもの思いを探る→教師の見通し・構想→こどもの主体的活動+教師の支援

## 3 指導法上の課題=体験のしっ放し

- ・ 体験の価値付け、意味づけの必要性
- ・ 事前学習→体験学習→事後学習（体験の価値付け、意味付け）→まとめ・発表
- ・ 体験を欠いた学習は総合的学習といわない（知的理解で終わり、図書文献の二次加工）。間接体験も含めて実際の社会と向き合う学習。
- ・ 失敗体験や挫折体験と学習の振り返り、見通しの方法の獲得、心の耐性。

## 4 指導法上の課題=問題は解決するか

- ・ 大人も悩んでいる社会的課題に直面し、多くの場合、こどもには解決不可能（与えられた条件下で問題解決力を育てる教科学習との違い）
- ・ 問題をどうとらえ、考え、迫っていくか、その問題解決の主体的・創造的な方法や態度を育てる
- ・ 「こんなことをこのようにして調べてこんなことがわかりました」（教科学習）の後に、「そこでこんなことがいいたい」という自己主張、提言がつづく。

ex) (野菜を作ってエセ七に募金しよう ホ・4)「これからの畑について、ぼくは、ほうれん草を植えたいです。でも、ばあちゃんが、ビニールをかけてもおそいと言っているので、畑を休ませたほうがいいと思います。どうしてもやりたいのなら、たね代、ビニール代、ビニールをささえるものを買ってやります。でも、たね代とビニール代、ビニールをささえるもののお金は、ほうれん草を売っても、材料のものの方が高いので、赤字になってしまいます。だからぼくはやめたほうがいいと思います。そうしないと、エセ七のために使うお金がなくなってしまいますからです。」 栽培活動との違い、菊栽培

## 5 指導法上の課題=指導技術（教師の支援）

- ・ 学級の風土=支持的風土（こどもが思い切り自分が発揮でき、教師はそのことを喜んで受け入れ、友達どうし認めあい、知恵を出しあって支えあう）
- ・ 開かれた発問（こども自ら答えを見付けたり、活動するように働き掛ける発問）
- ・ 情報環境としての整備

## 6 ネットワーク型学習と地域コミュニティ形成への展開

- ・ こどもどうし（異年齢、学校間-地域・校種）
- ・ 地域ぐるみ（コミュニティ形成、世代間、国際）

## 7 指導体制をどうするか

- ・ 教師の専門性をこえる（異業種・異専門のTT-学校内外）
- ・ ゲスト・ティーチャー

## 8 評価の工夫

- ・ 評価の観点（前述）
- ・ 評価の方法（個人内評価-ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価など）